

=30 chromosomes, while its var. *circaeoides* of Japan seems to have 28 chromosomes. As the Japanese plants are very variable morphologically, we have to examine more materials from various parts of Japan. *Lysimachia Tanakae* of south-western Japan has $2n=24$ chromosomes similar to those of *L. Tashiroi* reported in J. J. B. **34**: 9 (1959). *Lysimachia congestiflora* ($2n=48$), *L. debilis* ($2n=84$), and *L. ferruginea* ($2n=48$) of Eastern Himalaya are polyploids with a basic number of 6. They have been once confounded with *L. japonica*, but belong to a separate group from *L. japonica* ($2n=20$) of Japan, a tetraploid with a basic number of 5.

○ホトトギスの白花品について (武田久吉) Hisayoshi TAKEDA: On the white-flowered form of *Tricyrtis hirta* Hooker

ホトトギス属の一園芸品に、枝変りによる白花品が生じ、そしてそれは開花結実しても、種子を生じないということが中島庸三氏によって、本誌第 39 巻第 8 号, p. 254 に報告された。私は戦前に友人からホトトギスの白花品 (forma *albescens* Hiyama に当るものか) 1 株を貰い受け、以来普通のホトトギスなどと共に庭内に植えているが、これは純白の花をつけるもので、その起源が何であるかははっきりしない。然し子実を生ずることは普通品と同じく、そちこちに種子が散って、今では大分繁殖している。開花期も普通のホトトギスと同時であるが、この両者の間に中間と思われるものは未だ発生しない。白花品は茎まで緑色で、少しも繁彩を帯びることがない。これは bud sport でなくて、seed sport なのであろう。

戦後のことであるが、武州御岳で、ヤマジノホトトギスの白花品を見たことがある。これもただ一本の茎だけのもので、根を掘って見ても、中島氏が示されたような別の茎との連絡はなく、独立したものであったから、おそらくこれも seed sport なのであろう。そしてこれは多分 *T. affinis* Makino forma *albida* Okuyama に該当するものと考ええる。

(千代田区 [redacted])

□Seward, A. C. Fossil plants vol. 1--4, pp. 452, 624, 656, 524. Hafner Publishing Co. New York & London (1963). ￦20.200 1898 から 1919 にわたって出た本書は、化石植物の大切なテキストであるが久しく絶版であった。近年の複製出版のおかげで再入手できるようになった。印刷は鮮明、もとの網版の挿入図も存外明瞭であるのは助かる。高価なのは痛いが古本がないとあれば致し方もない。(前川文夫)